



ニッポン  
ドクター和の

臨終図巻

長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

阪急梅田駅の古い飲食街、かつば横丁の中に台湾料理「リュータン」がありました。私が生まれる前からあったその店は、庶民的なのに餃子も角煮もビーフンもとびきり旨く、紹興酒が止まらなくて困る店でした。何よりもシェフの程一彦さんの笑顔がチャームポイントで、何時に行ってもお客さんで溢れていた人気店でした。

程さんが65年続けた「リュータン」を閉めたのは、2010年のこと。「私事ですが、72歳の体力を考えると閉店いたしました。意味深いこれからは歩を固め、講演、授業、放送、執筆、有田焼、ジャズライブなどを」と書かれた張り紙を見たときは、寂しさとともに、「意味深いこれから」という言葉に胸が熱くなりました。

料理研究家 程一彦氏



あれから9年。関西が誇る中華の鉄人、程一彦(本名・根本一彦)さんが6月23日に亡くなりました。享年81。死因は発表されていませんが、台湾グルメツアー中に、滞在先のホテルで亡くなったそうですから、きっと直前までお元気で、心疾患などによる突然死の可能性が高いと思います。程さんは、年に何度か台湾グルメツアーを企画

し、とっておきの店を日本人に案内していたといいます。海外旅行が盛んである昨今、旅行先や移住先で亡くなることは珍しくはありません。渡航先で死亡が確認された場合、まずは現地の病院ないし警察から、日本大使館や総領事館に連絡が入り、そこから外務省を経由して、ご家族に連絡が入るのが通常の流れです。

もし連絡が来たら、家族もしくは代理人が、現地にて故人の帰国手続きを行わねばなりません。国ごとに手続きの仕方が違いますが、在外交官がサポートしてくれるはず。死亡診断書は現地の医師が書きまします。帰国後の手続きのため、その和訳も必要となります。また、遺体を日本に搬送するまでに時間を要するときは、

エンバールも必要です。このときに、防腐証明書がないと空輸ができない場合がありますので気を付けてください。遺体の空輸費用はおおよそ100万~150万円かかると言われていますが、海外旅行保険に加入していれば、補填(ほとん)されるはず。だから旅行前に、もしものためにやはり保険には加入しておきましょう。

程さんは大阪生まれ。灘高から関西学院大へと進んだ生粋の関西人ですが、ずっと台湾料理とともに生きてきました。日本統治下の台湾で両親が出会ったそう。そして戦後、バラックの店で両親が料理店を始めたそうです。

月に1度の両親のお墓参りを欠かしたことはなかったとか。親が恋に落ちた土地で、82年間の人生を台湾料理とともに終わらせた程さん。ああ、あのビーフンをもう1度食べたかったなあ……。

台湾料理とともに生きてきた人生